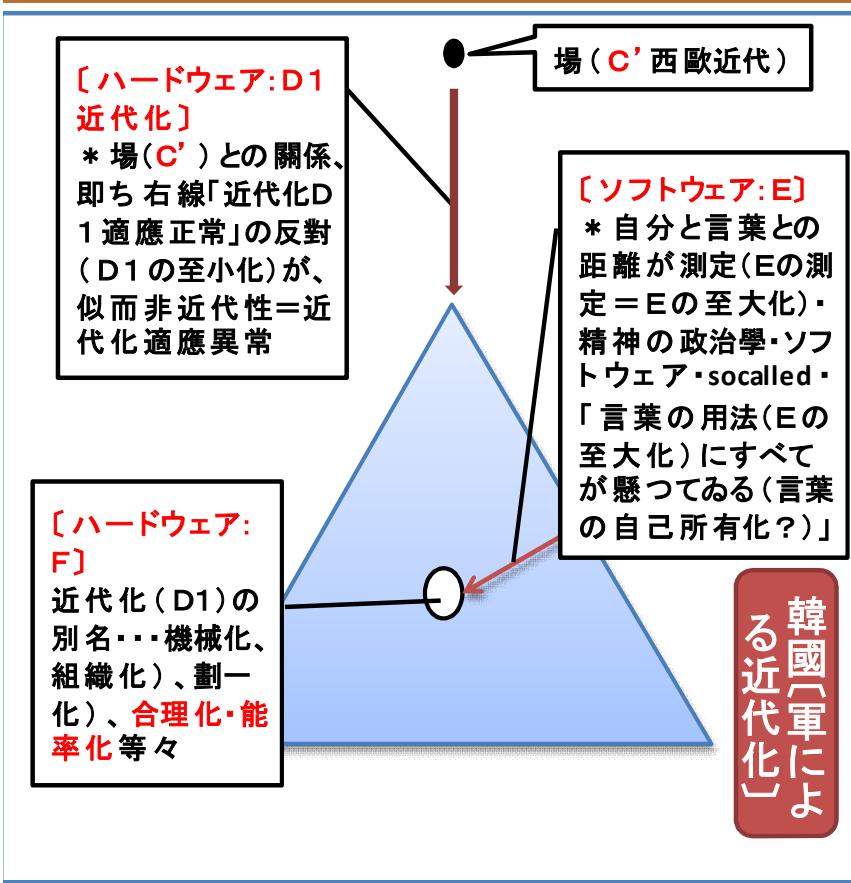


〔後進國韓國の場合、以下圖及び右項内容の「近代化」を進めるには、軍の關與が最適切であつたと恒存は言ふ。但し「近代化適應異常」の存在に迄は、此處では踏み込んではゐない]…

「近代化の土壤の全くない所で、しかも北鮮といふ(中略)共産主義=全體主義に凝り固つた武装集團を前にして、二十年、三十年、軍が直接、間接、政治に關與したとしても私には少しも不思議とは思へない」(『日本よ、汝自身を知れ』P3 43)と。



*「近代化(實在物:D1)の必要條件は技術や社會制度(潛在的言葉:F)など、所謂『ハードウェア』のメカナイゼーション(機械化)、システムライゼーション(組織化)、コンフォーマライゼーション(劃一化)、ラショナライゼーション(合理化)等々の所謂近代化(潛在的言葉:F)に對處する精神の政治學(Eの至大化)の確立、即ち所謂『ソフトウェア』の適應能力(Eの至大化・附合ひ方・So called)にある。(中略)それ(近代化D1)に對應する方法は言葉や概念(F)に囚れず、逆にこれを利用すること、即ち言葉の用法(E)にすべてが懸つてゐる(言葉の自己所有化?)。自分と言葉との距離が測定(Eの測定=Eの至大化)出來ぬ人間は近代人ではない。いや人間ではない」(『醒めて踊れ』全七P393上)。

*「言葉(F)と話し手との間に距離(E)を保ち、その距離を絶え間なく変化させねばならぬのと同様に、相手と共に造り上げた場と自分との間(D1)にも距離を保たねばならず、その距離を絶えず変化させ得る能力がなければいけない。さういふ能力こそ、精神の政治學としての近代化といふものなのである」(『醒めて踊れ』)と。